

**【注意】発行当時の原稿をそのまま掲載しております。農業について記載のある場合は、最新の農業登録内容を確認し、それに基づいて農業を使用して下さい。また、成果情報によっては、その後変更・廃止されたものがありますのでご注意下さい。**

[成果情報名] 水稲除草剤の体系処理による雑草イネの防除

[要 約] 雑草イネが発生する圃場では雑草イネに有効な初期除草剤、初中期一発処理剤、中期除草剤を用いた体系処理を行うことで発生を抑制することができる。除草剤処理の間隔は7～10日を基本とする。

[部 署] 農業総合研究センター・土地利用型作物部

[連絡先] 023-647-3500

[成果区分] 普

[キーワード] 雑草イネ、防除体系、水稲除草剤

## [背景・ねらい]

県内の複数地点において、雑草イネの発生が確認されている。雑草イネが増加すると栽培品種との競合による減収や、生産物への混入による農産物検査等級低下等の影響がある。そこで、雑草イネに対して有効な水稲除草剤を使用した効果的な防除体系を構築する。

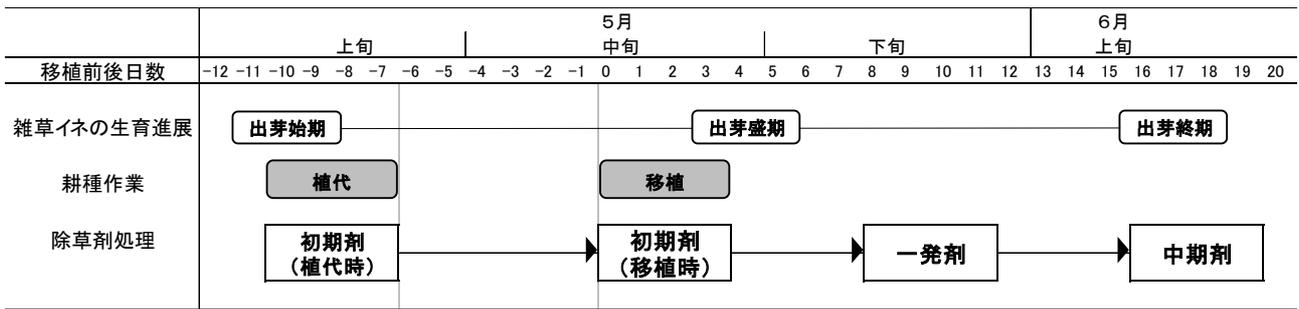
## [成果の内容・特徴]

- 1 雑草イネの効果的な防除体系は図1のとおりである。除草剤が雑草イネに対して効果を示す時期は、雑草イネの出芽前から出芽始期までに限られる。除草剤処理の間隔があくと雑草イネの生育が進み、防除効果が低下するため、除草剤処理の間隔は7～10日を基本とする。
- 2 雑草イネの防除には、表1に記載した除草剤から選択して使用する。
- 3 雑草イネが出芽する期間は長く、6月上旬まで続く(図1)。そのため、5月20日に移植した場合、移植後7～10日後の一発剤までの3回体系処理では、処理後に出芽した雑草イネが残草する。一方、移植後14～20日の中期剤を含めた4回体系処理では、6月上旬に出芽する雑草イネも防除可能であり、残草量を少なく抑えることができる(図2)。

## [成果の活用面・留意点]

- 1 除草剤を処理した結果、水稲に薬害が生じることがある。除草剤の処理後の高温や土壌の異常還元によっては薬害が助長され、水稲の生育が抑制される。
- 2 除草剤使用の際は、使用基準(使用時期、使用量、使用回数)及び使用後の止水等の注意事項を遵守する。
- 3 プレチラクロール乳剤及びプレチラクロール粒剤の使用回数はそれぞれ1回であるため、植代後にプレチラクロール乳剤を使用した場合は、移植時または移植直後にプレチラクロール粒剤を使用し、植代後にプレチラクロール粒剤を使用した場合は、移植直後にプレチラクロール乳剤を使用する。
- 4 除草剤処理後7日間は止水管理を行う。ただし、オキサジアゾン・ブタクロール乳剤の使用時期は植代時(移植4日前まで)であり、散布後4日間は落水及びかけ流しは行わない。また、移植時に落水しないよう、植代時に必要以上の水を水田に入れないようする。
- 5 残草した雑草イネは、雑草イネの脱粒が始まる出穂2週間後頃までに手取りで対処する。なお、擬態型の雑草イネは草丈が栽培品種と同程度で判別が難しいため(図3)、移植1か月後頃に株間、条間に発生した株を抜き取って対応する。
- 6 代かき等による耕種的防除も有効である。対策の詳細については「雑草イネまん延防止マニュアル Ver.2」(農研機構中央農業研究センター発行)を参考とする。

[具体的なデータ]



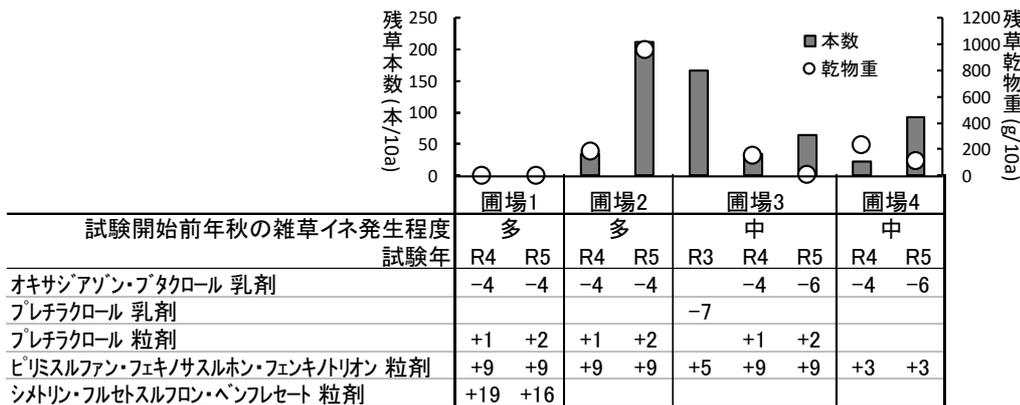
注1) いずれの処理も前回処理の7~10日後に行う。  
 注2) 出芽の始期、盛期、終期は出芽動態モデルと有効積算気温に基づき推定した(始期:10%、盛期:50%、終期:95%)。

図1 雑草イネの防除体系

表1 雑草イネに有効な除草剤の一覧

| 分類           | 処理時期        | 除草剤名   |
|--------------|-------------|--|
| 初期剤<br>(植代時) | 植代時         | オキサジアゾン・ブタクロール乳剤 (デルカット乳剤)   |
|              | 植代後         | プレチラクロール乳剤 (エリジャン乳剤)<br>プレチラクロール粒剤 (ソルネット1キロ粒剤)  |
| 初期剤<br>(移植時) | 移植時         | プレチラクロール粒剤 (ソルネット1キロ粒剤)  |
|              | 移植直後        | プレチラクロール乳剤 (エリジャン乳剤)<br>プレチラクロール粒剤 (ソルネット1キロ粒剤)  |
| 一発剤          | 前回処理の7~10日後 | ピリミスルファン・フェキノサスルホン・フェンキトリオン粒剤 (ベッカク1キロ粒剤)<br>ピリミスルファン・フェキノサスルホン・フェンキトリオンジャンボ剤 (ベッカクジャンボ)<br>インダノファン・ピラクロニル・ベンゾピシクロン水和剤 (ライジンパワーフロアブル)<br>インダノファン・ピラクロニル・ベンゾピシクロンジャンボ剤 (ライジンパワージャンボ)<br>イマゾスルフロン・オキサジクロメホン・ピラクロニル・プロモブチド水和剤 (サラブレッドGOフロアブル) |
| 中期剤          | 前回処理の7~10日後 | シメリン・フルセトスルフロン・ベンフレセート粒剤 (ナイスミドル1キロ粒剤)   |

注1) 除草剤名欄の()内は商品名  
 注2) プレチラクロール乳剤及びプレチラクロール粒剤の使用回数はそれぞれ1回である(成果の活用面・留意点参照)。  
 注3) 植代時のオキサジアゾン・ブタクロール乳剤は移植の4日前まで、植代直後のプレチラクロール乳剤及びプレチラクロール粒剤は移植の7日前までに散布する。



注1) 雑草イネ発生程度は、多:1000株/10a、中:250株/10a、少:100株/10aを目安とした。  
 注2) 除草剤名の右欄の数字は処理日(移植前後日数)

図2 現地圃場における各除草剤体系の除草効果

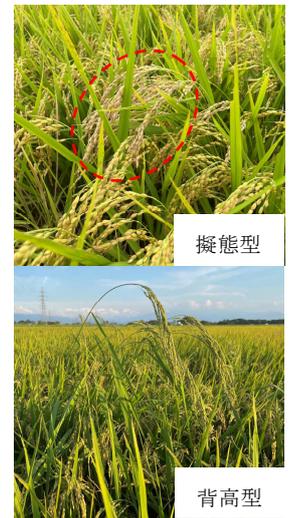


図3 出穂した雑草イネ

[その他]

研究課題名：雑草イネの出芽動態にもとづいた効率的防除技術の開発

予算区分：受託

研究期間：令和5年度(平成30~令和5年度)

研究担当者：堀心佑、後藤元、田島大貴、阿部光希、川崎聡明、遠藤昌幸、今泉智通(農研機構)

発表論文等：なし